

男女共同参画社会をつくる ～男女共同参画に関するQ&A～

Q55 「“おとう飯” 始めよう」キャンペーン実施自治体からの報告「育てて育つ」伊豆市での子育ての様子を教えてください。

A55 伊豆市では、『育てて育つ』をキャッチフレーズとして、子育ての素晴らしさを呼び掛けるとともに、伊豆市で子育てをする魅力を伝えています。このキャッチフレーズは、あえて一人ひとりのイメージに任せ、子育てをされていて良かったことを心に浮かべていただけたらと思っています。また、親だけでなく、皆で子どもたちを見守る安心感や、地域もまちも一緒に育っていこうというメッセージも込めています。

①父も育つ！「父親教室」

伊豆市では、父親の家事・育児への積極的な関わりを促すことを目的として、平成29年度から父親教室を開催しています。

初めは料理をメインに始めた父親教室ですが、「料理はちょっと…」と敬遠する方が多いと感じました。そこで、エプロンや木の皿を作るプログラムなども織り交ぜ、また、子どもや母親も参加可能としています。家族で楽しみながら行う簡単な調理体験を通して、家庭で実践するきっかけになればと考えています。参加していただくと、普段、料理を全くしないという父親から「簡単にできてびっくりした」「料理は子どもとの良いコミュニケーションになると思った」という感想が。また、一緒に参加した母親からは

「教室では夫が自ら皿洗いをしていて驚いた」



▲子どもと一緒に。賑やかな父親教室

「参加後は家事や育児を意識してくれている」という声が聞かれました。父親教室は、男性の家事・育児への意識改革に良い効果をもたらしています。

②市長が男の料理を呼びかけおとう飯サポーターに参加

市の父親教室の取組みを知っていただき、男性の家事・育児参画を呼び掛けるため、平成30年12月に菊地市長がおとう飯サポーターに参加。社会人と大学生の二人の息子の父親である市長は、「長男が一人暮らしを始める時に野菜炒めの作り方を教えた」と自らの子育てを振り返りながら調理に取り組みました。この時に作ったのは、市民からレシピを募集する「伊豆ベジ自慢コンテスト」の入賞作品であり、市内の中学校の調理実習などでも作られている「伊豆いっぱいハンバーグ」。ブランドとなっている鹿肉「イズシカ」や特産品の椎茸や弘法芋など、具たくさんで栄養たっぷりのハンバーグがふっくらと焼きあがりました。日本一のワサビがアクセントとなっています。

伊豆市には素材の良さをそのまま活かせる特産品や地域で採れた新鮮な野菜や肉、海産物もあります！凝った調理をしなくても、お父さんたちの愛情を注げば大丈夫！

③今後の展開

父親教室の参加者から毎回アンケートを取っている中で、家事・育児にあまり関わっていない父親からは「何をしたらいいのかわからない」という声が多いように感じました。

今後は、夫婦で手伝ってほしいこと・できることを共有できるようなプログラムを予定しています。

互いに思いやり、助け合う温かな家庭で、子どもたちがのびのびと育っていけるよう、伊豆市では今後も子育て支援に力を入れていきます。



出所 内閣府男女共同参画局

2019年3・4月号